

# 大会宣言

世界は、気候変動、核兵器廃絶、格差拡大などの問題で協調して対処することを各国に要求している。日本政府は産業界の要望に従うのみで、どの問題に対しても有効な政策を策定することが出来ない。気候変動に関しては、しかしながら低レベルの中・長期削減計画を模索している。核兵器に関しては、米国の核の傘下に留まろうとし、米軍再編のために資金の過剰な供与を願い出る始末である。労働条件は悪化し、非正規・派遣労働者が解雇され、多くの若者が職につけないでいる。また、福祉、教育が軽視され、大企業、軍事が優先されて、科学技術・学術をこの路線に動員する動きが強まっている。

日本科学者会議は、これら世界と日本の困難な問題に対処するには、日本国憲法の人権尊重、平和主義の立場に立つ、科学的で正確な情報に基づく国民の合意形成が重要であると主張してきた。そのために研究者の自主性の保障、国民が科学研究の成果を享受できる環境が必要であると主張してきた。第40回定期大会はこれまでの運動の成果を再確認し、さらに以下の活動に取り組むことを確認した。日本科学者会議は被爆国の科学NGOとして、憲法を遵守し、科学者の社会的責任をはたす活動を行うことをここに宣言する。

1. 人類の生存と平和的繁栄のために研究を行い社会へ働きかける
  - 1) 第18回総合学術研究集会(2010年、東北地区)の準備を始める。
  - 2) 支部会員が気軽に参加でき、発表できる研究活動の定着をはかる。13研究委員会の活動を促進し、支部の研究活動との連携を深める。
  - 3) 憲法の理念を理論的に深め、改悪された教育基本法の具体化を阻止し、教育条件の整備を求める。
  - 4) 研究成果の普及と広報活動をいっそう強化する。
  - 5) 諸団体との共同によって、原水爆禁止世界大会・科学者集会(8月2日、神戸市)を成功させる。2010年NPT再検討会議にむけ「核兵器のない世界」署名運動に取り組む。「九条の会アピール」賛同科学者1万名をめざす。
  - 6) 研究成果を国際シンポなどで発表し、国際的運動をINES(地球的责任のための技術者・科学者の国際ネットワーク)など海外の科学NGOと連携して行う。
2. 高等教育と科学・技術の真の発展のために発言し行動する
  - 1) 高等教育と科学・技術に関する政策提言を友誼団体と共同作成し、要求運動を展開する。
  - 2) 大学の研究教育環境、再編問題を検討する。資金を教育・研究を保証するものに転換させる。
  - 3) 「研究者の権利・地位および倫理」を実践に活かして活動し、「宣言」「綱領」として採択を目指す。
  - 4) 国公立研究機関の縮小・再編問題など検討し、政策提言などを通じて改善を訴える。
  - 5) 若手研究者の研究環境などの実態を把握し、ポストドク問題や非常勤講師問題の解決に向けて政策提言を行う。
  - 6) 民間企業の技術者・研究者の実態を把握し、権利保障や地位向上を求める活動を他団体と連帯して行う。
  - 7) 女性研究者や技術者の権利・地位の向上に努める。
3. 組織を強化・活性化し、会員を増やし、科学者運動を発展させる
  - 1) 常任幹事会・幹事会は全国的活動を主導し、支部・地区の活動を促進・援助する。
  - 2) 支部は事務局体制を確立あるいは維持して会員把握、会誌配布、会計など基本業務をまっとうし、会員間の連携を強め、力を出し合って、魅力ある活動を展開する。困難支部には、全国事務局や地区が積極的に相談にのり、協力する。
  - 3) 若手会員を拡大し、研究・組織活動への参加を通じて将来の担い手として成長を促す。大都市支部・大規模大学分会では院生会員比率を10%以上とする。修士、専門職大学院院生、学部生にも働きかける。
  - 4) 女性会員を拡大し、本会における女性会員・役員の比率向上に努める。
  - 5) Websiteを充実し、会員交流の促進、利便性の向上を図る。
4. 『日本の科学者』を充実・普及する
  - 1) 編集体制の一層の改善を図り、安定的な定期発行を維持する。
  - 2) 誌面の充実・改善に努め、依頼・投稿原稿の一層の増加を図る。学術探求を主題とする編集企画を増やす。
  - 3) 『日本の科学者』サポーター制度の充実と活用を図る。
  - 4) 国立情報学研究所のNII論文情報ナビゲータに『日本の科学者』を登録し、本誌の電子図書館化を図る。